

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1471903094	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	株式会社 レオパレス21		
事業所名	あずみ苑 津久井浜		
所在地	(〒239-0843) 神奈川県横須賀市津久井1-16-57		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成27年9月21日	評価結果 市町村受理日	平成28年1月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>入居者様の体調の変化に常に注意し、ご家族様と相談しながら在宅クリニックの医師に往診を依頼するなどして、安心して生活出来る様支援している。</p> <p>帰宅願望や不穏時には声掛けや職員の対応で、気分転換や精神安定を図っている。</p> <p>入居者様の出来る事を、維持出来る様支援している。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成27年10月9日	評価機関 評価決定日	平成28年1月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は京浜急行津久井浜駅から、徒歩10分ほどの住宅地にある。木造2階建ての2ユニットのグループホームである。間取りは、リビング・キッチンが建物のほぼ中央の東面にあり、明るく清潔である。テレビやソファ、観葉植物が置かれ、くつろぐことが出来る。壁面には利用者が作成した行事の飾り付けなどがあり季節感を創出している。</p> <p>【理念に沿った運営とチームケア】 利用者が自宅の生活の延長の様に、個性を大切にゆっくり、ゆったりと生活できるような理念の実践を志向している。施設長は、このホームのスタッフとして入職した経緯から職員の要望や意見を尊重し、モチベーションアップや定着率の向上に寄与している。事業所内に各種の委員会（身体拘束、感染症、事故対応、接遇向上など）を設置して、サービスの向上に努めている。</p> <p>【健康管理、看取り支援と災害対策】 医療連携による24時間オンコール体制がある。月に2回、協力医の往診があり、訪問看護師が毎週健康管理に訪れている。主治医、家族、事業所のチームケアにより、開設以来多くの看取りをしている。 防災訓練を年2回実施している。利用者の身体状況に応じた災害時移動方法を掲示している。また、津波対策として、玄関に避難経路を掲示し、高所への避難訓練を実施している。災害備蓄として、飲料水と食料などを3日分備え、職員用としても4日分備えている。</p> <p>【地域交流と利用者の暮らしぶり】 町内会の祭りの際には神輿が立ち寄ってくれる。事業所の行事には家族も参加し、民謡やフルート演奏のボランティアの来訪がある。敬老会には幼稚園児が訪れ、利用者折り紙やおやつ作りを楽しんでいる。地域の中学校の体験学習を受け入れている。利用者は毎日近くの海、山、社寺などを散歩している。季節の花見、三崎、葉山にも出かけ、買い物や外食にも出かけている。日向ぼっこやレクリエーションを楽しみ寛いでいる。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	あずみ苑 津久井浜
ユニット名	れんげ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「ゆっくりとゆったり」とを取り入れ、個性を大切に生活して頂ける様、支援にあたっている。	開設時に作成した独自の理念を継承している。利用者が自宅の生活の延長の様に、個性を大切にゆっくり、ゆったりと生活できるよう、理念の実践に努めている。スタッフルームや談話室に理念を掲示し意識づけしている。新入職員には入職時に施設長（管理者）が説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会加入し、町内祭礼参加や資源ごみ回収の協力、町内散歩での地域の方とのふれあいなどを通し、交流を図っている。クリスマスには近隣の幼稚園児の来訪がある。	大谷町内会に加入し回覧板が回ってくる。町内会の祭りには神輿が立ち寄ってくれる。地域の資源ごみの回収や防災訓練に参加している。事業所の行事には家族も参加し、民謡やフルート演奏のボランティアの来訪がある。敬老会には幼稚園児が訪れ、利用者とおやつ作りを楽しんでいる。地元の中学校の体験学習を年2回受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方にも気軽に声をかけていただけるよう、挨拶など日頃からするように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、事業所の状況報告や評価の報告を行い、意見を頂き次の行事等の参考にしている。	会議は2ヵ月に1回開催している。開催日は利用者家族の希望で休日が多く、参加者は家族、民生委員2名、法人エリア長と事業所職員である。地域包括支援センター職員は平日の開催には出席している。会議では事業所の活動報告やAEDの使い方研修、事業所内の温度管理などの助言があり、運営に反映させている。	地域の理解・協力が得られるように、より多くの関係者（町内会役員や知見者など）の参加が求められます。また、開催曜日の工夫や外部評価結果を報告し、サービスの向上に活かすことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは必要時空き情報交換など連絡をとり、入居者に関する相談も行っている。	市担当課とは、利用者の紹介や空き情報などで連携している。医療連携体制加算の手続きを相談した。外部評価の報告をしている。市主催の研修会に参加し、運営に活かしている。防災訓練には消防署から職員を派遣してもらい指導を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の行う研修の中でも身体拘束についてすすんで学んでいる。玄関施錠は開所以来行わず、言葉による拘束にも気をつけている。	身体拘束を行わないことを契約書などに明記している。事業所内の身体拘束廃止委員会やコンプライアンス会議で学習している。主玄関は昼間は施錠しない。利用者の不意の外出には、ユニット玄関のセンサーと鈴で察知し、職員が付き添い、落ち着くまで寄り添って対応している。以前、利用者が不意に外出したときには、地域の方の協力で無事対応できた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等に参加し、内部研修で知識を深め、日常生活の中でも言葉の暴力が無いよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の成年後見人をしている方をお願いし、研修を実施した。必要時にご家族へも制度の活用を勧めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際も十分内容を理解していただき契約している。又、契約を解除する際も内容を十分に説明し理解していただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の意見を反映できるように受付に記入用紙と意見箱を設置している。面会時など話しかけ意見を伺っている。行政にも相談を行っている。	玄関に意見箱を置いている。家族会は2ヶ月毎の運営推進会議と同じ日に開催し、意見や要望を聞く機会を設けている。他にも行事や家族の来訪時に聞いている。意見・苦情については全体会議で対応している。家族には月に1回「生活介護サービス実施報告書」を郵送し、利用者の生活の様子やホームの行事などを知らせている。	今回の外部評価で行った「利用者家族等アンケート」などから明らかになった意見・要望を、運営に反映することを期待します。また、来訪の少ない家族に対しては、きめ細かい報告の工夫を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロアー会議、全体会議開催できており、管理者も介護業務に入る機会が多く意見を聞いたり考えを共有できている。	法人が開催するエリア会議で、各業種の管理者間で運営課題などを協議している。月1回の全体会議やフロアー会議で職員の意見・要望を聞く機会を設けている。年1回、個人面談（業務・異動・資格取得などの要望、人事考課など）も実施している。施設長は日々職員から要望や意見を聞くようにしている。職員一人ひとりの要望や意見を尊重して、職員のモチベーションアップや定着率の向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業者が適切に行っている。分からない事は共に学んでいけるよう質問できる、教えあえる環境を目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時の事業者独自の介護基礎研修が義務付けられている。パソコンを使用した勉強も定期的に義務付けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地区同業者と職員合同研修を開催し、職員の交流と勉強に役立っている。地域グループホームとの合同研修に参加し、他所を知る機会にも役立っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個別に接する機会を多く持つことや、集団での様子を観察し、不安原因がどこにあるか考えていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時で相談や雑談の中でご家族の気持ちをくみ取っている。また、電話でも積極的に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が最終的に特養を希望されている場合など、情報を提供している。ご家族と相談し、在宅医療を取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は自己にてやっていたく、職員も一緒にやるなど「介護する人、される人」と一方的な関係にならないよう家庭的な雰囲気作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族と話し合い、ご家族の立場からも出来る支援を行っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活や仕事に関係してきた方たちの面会や、自宅、墓参りなどの外出をご家族と協力し行っている。	友人や知人の来訪時は、居室で湯茶の接待をしている。墓参りや外泊、旅行、理美容などは家族の協力がある。散歩コースや商店での買い物で、馴染みの近隣住民と交流している。電話の取次ぎや家族に宛てた趣味の色紙や手紙の投函などを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立感を与えないよう家族的な雰囲気作りと共同作業を通しお互いが理解しあえる場を設けている。利用者同士の認知症理解が難しいときがあるが職員が間に入る事で回避できている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は、必要に応じて相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から本人希望、意向等をくみ取りかなえる方向で努力している。	入居希望者には見学を勧めている。初回アセスメントで利用者・家族の意向を把握している。その後の要望の変化については、居室担当職員を中心に、日常の会話の中で把握している。入浴中や夜間帯の1対1のくつろいだ時に把握することもある。意思表示の困難な方には、本人の身振り、表情などから汲みとり、家族からも聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報と共に、家族や本人の会話や行動から、それまでの生活習慣を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の利用者の身体状況の変化等を全ての職員が注意、握把しておりその状態を記録に残している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアミーティング時に問題点やケアプランの見直しなどを行い、報告形式で毎月状況をお手紙している。	本人・家族の意向を聞いて介護計画を作成している。毎月、フロア会議や担当者会議でモニタリングしている。介護計画の見直しは通常6ヶ月毎に行っている。介護計画には、医師の医療情報提供書や本人・家族の意向を反映している。家族には毎月「生活介護サービス実施報告書」で生活の状況を報告している。介護計画と連携した支援経過記録の記帳方法については、試行錯誤中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録ししかるべき場所に保管している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリの為に訪問マッサージや、在宅医療や訪問歯科診療を取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の回覧板に目を通し、廃品回収など協力出来る事には参加するようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携先のクリニックより定期往診を実施している。希望により入所前からのかかりつけ医への通院も支援している。	月に2回、協力医の往診があり、歯科医は随時往診がある。眼科、皮膚科などの通院は原則家族対応であるが、必要に応じ事業所職員が付き添うこともある。訪問看護師が毎週健康管理に訪れている。医療連携による24時間オンコール体制である。以前から利用しているかかりつけ医は、家族が受診に付き添っている。認知症の対応については協力医に相談している。インフルエンザの予防接種は全員接種し、肺炎球菌は希望者のみ接種している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	重度の方や健康状態に不安のある方は、ご家族と相談し在宅医療を取り入れて、身体状況など報告し指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、職員が付き添い、医師、看護師と情報を伝える。地域医療連携ソーシャルワーカーと情報交換をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルを希望された時は、ご家族、在宅医とカンファレンスを開き、家族の意見を尊重し支援に取り組んでいる。	「重度化対応・看取り介護指針」があり、利用者・家族に入居時に説明し同意を得ている。主治医、家族、事業所のチームケアにより、開設以来多くの看取りを行っている。本人・家族の希望によっては、系列の老人ホームへの転居や入院支援も行っている。職員も看取り指針を共有し、協力医の看取り研修を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常業務の中で職員のスキルにあった対応が出来る様、緊急時にも冷静に判断出来る様指導している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回程度の防災訓練の実施を行っている。又消防署より、水消火器をかり、常時誰でも使えるようにしている。津波想定での避難訓練や避難路の確認も随時している。	年2回、防災訓練を実施している。内1回は消防署立ち合いで行っている。津波対策として、玄関に避難経路を掲示し、高所への避難訓練を実施している。ユニットと居室の入り口には、利用者の身体状況（車いす利用者、要介助者、自立歩行者）を分かり易く色別し、移動方法を掲示している。災害備蓄として、食料と飲料水など3日分を備えている。職員更衣室にも別に職員用として4日分備えている。地域の防災訓練には職員が参加している。火災発生時は、事務室の火災自動通報機より消防所、町内会長、職員に通報される。	夜間想定訓練の実施と事業所の訓練時に地域の協力が得られるように働きかけることを期待します。また、備蓄の在庫管理台帳の整備やIH調理器の災害時の停電対策として、カセットコンロなどを常備されることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の主張に傾聴し出来る限り対応している。個人情報管理なども法人から研修を受け遂行している。	人格の尊重については、会議や申し送りの度に、マニュアルや職員行動指針を項目ごと読み合わせし、理解を深めている。利用契約時に個人情報保護の説明を行い、同意書を受け取っている。職員は入職時に誓約書を提出し、コンプライアンス研修を受講している。個人情報に係る重要書類は、事務室のキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が思うように出来ない方には、答えが引き出せるよう工夫して話し掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念の「ゆっくりとゆったり」を基にその方に合った生活をマイペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は自己決定して頂くが服装は職員がアドバイスをすることもありますが、自身で決めてもらっている。髭剃りは自己、介助とも毎朝行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭での雰囲気や大事に、共に準備、片付けを行っている。希望を取り入れた座席にしている。職員と一緒に食事を楽しんでいる。	食材と献立は配食業者に委託している。利用者の食事形態に合わせて、職員が調理し提供している。利用者は、下ごしらえや片づけなど出来ることを手伝っている。栄養バランスは、法人の管理栄養士が定期的に巡回チェックしている。行事食は配食業者に委託している。外食は寿司店やファミリーレストランに行くこともある。利用者と職員は談笑しながら一緒に食事を楽しんでいた。居室で食事する方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事中は利用者と同席し、様子を見ながら摂取状況を把握し記録している。食事形態も考え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施。口腔内観察を行い、自力で行えない人に関しては介助を行なっている。歯周病の方は定期的な歯科訪問でケアしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表の記入により排泄パターンをチェックし、トイレ誘導を行い失敗を回避している。全介助でも立位が可能な方はトイレ誘導している。	利用者全員が排泄介助を必要としており、リハビリパンツなどを使用している。個々の排泄パターンを把握し、トイレに誘導して自立で排泄できるように支援している。トイレはユニットごとに3ヶ所あり、扉には大きな文字の表示がある。内部には手すり、ひじ掛け、鏡、手洗い、ペーパータオルを備えている。リビングに近いトイレは車いす対応で、失禁した場合は、隣の浴室で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分調節や乳製品を取り入れた朝のテレビ体操など軽運動を促し、医師の指示により下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の場合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には、利用者様の好きな時間に入浴できるよう対応している。拒否される方には声掛けの工夫を行い入浴を促している。	入浴は週2回を基本としているが、回数や入浴時間は利用者の希望に沿っている。同性介助を基本とし、浴水の交換はその都度行っている。ゆず湯や菖蒲湯で季節感を楽しんでもらっている。入浴を好まない人には、無理強いをせず、声掛けの工夫やタイミングをみて勧めている。入浴日を変えることもある。浴室にはエアコン、脱衣室には電気ヒーターや扇風機を備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	個々の利用者様の生活習慣に配 慮し、自己のペースにあわせ就 寝している。 就寝準備が出来ない方にも介助 に当たっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の 変化の確認に努めている	配薬・服薬の確認は常に2～3 人で確認し、誤薬の無いように 対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活歴 や力を活かした役割、嗜好品、楽 しみごと、気分転換等の支援をし ている	一人で楽しんでいる時は見守り、 皆で楽しめる時もあり、その場 の雰囲気大切に、出来る事や、 やりたい役割は任せている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人 々と協力しながら出かけられる ように支援している	御家族との個人的な外出をして おり、日常は散歩が中心になっ ている。車椅子の方も、散歩や ドライブなど行っている。	天気の良い日は毎日散歩に出か けている。散歩コースは近くの 海、山、社寺など5コースほど あり、利用者の心身の状況を 勘案し選んでいる。車椅子の方 も職員の支援で一緒に出掛け ている。季節ごとに桜、つつじ、 菖蒲のお花見に行っている。水 辺公園（YRP）、三崎、葉山に も交替で出かけたり、買い物 や外食を楽しむこともある。玄 関先で外気浴をしたり、庭の一 角でじゃがいもやミニトマトな どを作り、季節の野菜が食卓を 飾ることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援し ている	自己管理が出来る方は買い物や 理容代など自己にて支払いして いただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に那樣電話の対応を支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾るように心がけていて、出来るだけ生活観が出るように心がけている。入居者に合った空間作りを心がけている。浴室は季節によりヒーターや扇風機で調整している。	リビング・キッチンが、建物のほぼ中央の東面にあり、明るく清潔である。テレビやソファ、観葉植物が置かれ、くつろぐことが出来る。壁面には利用者が作成した行事の飾り付けなどで季節感を創出している。洗面台には季節の菊やダリアの花が飾られ、家庭的な温かみを感じられる。利用者は玄関先で日向ぼっこをしたり、リビングでレクレーションを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアのテレビの前や玄関ホールに椅子を置き常に利用者様が休めるように配慮している。入居時にも個室に椅子の持ち込みをお願いしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、以前自宅で使用していた物を持ってきて頂き、利用者様が居心地良く過ごせる様な空間作りを提案している。その趣旨に協力頂けない時もある。	居室の表札は、個々の好みに合わせて工夫している。室内は整理整頓され清潔である。エアコン、換気扇、照明器具、防災カーテン、クローゼットが備え付けられている。利用者が居心地良く生活できるよう、馴染みのベッドやダンス、テーブル、椅子、テレビ、鏡、時計、カレンダー、縫いぐるみ、家族の写真、仏壇などの調度品の持ち込みを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行が出来る方は階段を使用して頂き、玄関にはベンチを置き靴を自己にて脱ぎ着して頂くなど工夫している。		

事業所名	あずみ苑 津久井浜
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくりとゆったりと」を理念にしている。個性を大切に生活して頂ける様に支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、夏祭りの際には神輿が来てくれる。花の水やりや清掃時には近所の方と挨拶をしている。行事の際は民謡やフルート演奏、幼稚園児の来訪がある。その他に2つの中学校の福祉体験学習を受け入れて地域との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポート研修を行った。地域の方々にも機会があれば活かしていきたいと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しており事業報告をしている。民生委員の方にも参加して頂いたり、利用者様家族や医療機関等の話も聞きサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	横須賀市に定期的にメール等で空き状況を報告している。又、横須賀市グループホーム合同研修にも参加しており連携をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自社研修が年1度、委員会は月1度行い身体拘束について学習している。言葉の拘束は特に注意している。玄関の施錠は夜間帯のみ。各階ドアにベルがあり帰宅願望のある利用者様が出て行かれた時にはすぐに状況を把握し、無理に戻っていただくまで付き添うことが出来ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や内部研修で知識を深めている。日常生活の中で言葉の暴力等無いよう職員全体で注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり苑においても成年後見人制度について学ぶ機会を持ち活用している。必要に応じてご家族へも制度の活用を勧めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約解除時には十分な説明を行い理解・納得をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂き意見や要望を運営に反映させている。受付には意見箱の設置も行っている。面会時に意見を頂く事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度全体会議がありフロア会議での報告や意見を聞き反映している。それ以外では個人面談や業務時間内で意見交換をすることもある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績を認めてくれていると思う。 労働時間の管理もしっかり出来ている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時事業者独自の介護基礎研修、年1度の自社研修にも参加している。定期的にパソコンでの勉強も実施されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域グループホームとの合同研修に参加し、他の施設職員との交流や情報交換をすることによってサービスの質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを多く取り、本人の希望や要望に耳を傾けている。不安要素がないか様子観察し、あれば取り除けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望に耳を傾け信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスが必要な場合も相談の上支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はやっていただいたり職員も一緒にやることで介護する人される人の関係にならない様に関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を取り合い共に本人を支えていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族が来苑しやすいよう又関係が続くよう支援している。一時帰宅や墓参り等の外出も家族と協力し行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話ができる様テーブルの配置など工夫している。互いに認知症の理解は難しく職員も一緒に関わる事で利用者同士の関係作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移っても時々面会したり見守っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴時や居室内で2人きりの時に話していただいたり、利用者同士の会話から本人の希望を把握し職員で共有し対応している。利用者家族に協力してもらう事もある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時面談の際にこれまでの生活歴など把握に努めている、又入居後も本人やご家族の会話や行動などから把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い申し送りで現状の把握に努めている。状態の変化を見逃さない様注意し職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とは日々の会話の中で家族とは面会時や電話にて話し合っている。カンファレンスを行い意見を反映し作成し毎月モニタリングを行い家族に書類を送付している。介護計画の内容は職員全員が把握しケアに反映するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや出来る事を記入するようにし情報を共有しながら見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅医療の取り入れを行っている。受診等は家族対応になっているが、状況に応じて職員が対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し安全に暮らしを楽しめるよう支援していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の在宅クリニックの定期往診を実施している。その他精神科や歯科の往診もある。基本的に職員が間に入っているが必要に応じて担当医と家族で話をして頂き適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐の看護職員はいない為往診時や電話で相談している。新たに医療連携で訪問看護師に相談できるようになった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーにて情報提供を行い、入院中は連絡を取り協力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には急変時におけるの確認書にて意見を伺っている。苑での看取りを希望された場合は家族、担当医と話し合い支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てず冷静に対応出来るように勉強会等を通して備えている。	/	/
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練の実施を行っている。消防署より水消火器を使用した訓練や津波を想定した避難訓練も行った。地域の方にも参加して頂き協力関係ができる様に努めていきたい。地域の防災訓練に利用者と参加することが出来た。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に合わせて声掛けを行っている。個人情報の管理も研修を受け、鍵をかけて管理し外部へ持ち出さない、出しっ放しにしない等徹底している。書類を破棄する場合もシュレッダーを必ず利用している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや自己決定できるよう声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで過ごして頂いている食事も本人の希望に出来る限り沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれが出来るよう衣類を選んだり支援している。毎日の洗顔、整髪、髭剃り等は自己でやっていただき必要に応じて支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや食器の後片付けを一緒に行っている。配膳や下膳はコップだけやって頂くなど無理の無いように心がけている。会話をしながら一緒に食事することで在宅での雰囲気を楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合った食事形態で提供し水分量や食事量を表に記入し把握している。食器や箸は共用だが状態に応じて食器などを利用者の使いやすいものに変える等の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力での歯磨きを促し出来ない部分を支援している。歯周病の方などは歯科医の往診も取り入れケアしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し早めに声掛けを行う等の支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の調節や乳製品を摂取していただく。毎日のラジオ体操や散歩等で身体を動かしていただき便秘予防に努めている。便秘の方はトイレ誘導時腹部マッサージを行ったり、医師に相談し薬を服用していただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本とし、それ以外に希望された場合にも利用して頂ける様にしている。入浴拒否の方には声掛けやタイミングを工夫したり、同性介助希望の方にも対応している。特に入浴日は決めていない為入浴チェック表で入浴していただけているかを把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて休んでいただいている。室温や布団調整などを行い安眠できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬・服薬などは複数で確認し誤薬の無いように努めている。利用者の傷病や薬の効果・副作用を把握するようにしている。処方に変更があった時等は特に変化がないか注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人での時間を楽しんでいる時は見守りを行っている。レク等を行い皆で楽しめる機会も作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの海や畑へ散歩の支援を行っている。歩行が難しい方は車椅子にて散歩に行く事もある。外出イベントではいちご狩りや外食等を企画し、家族にも一緒に参加していただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る利用者については買い物に行き支払い等をしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて家族に電話をすることがある。家族や友人からの手紙には返信できる様に支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、貼り絵や工作等を飾り季節を感じて頂ける様工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの位置を工夫している。居間の座席だけでなく、玄関に長椅子、テレビの前にはソファを置き好きな場所で過ごして頂ける様工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自宅で使用していた物を持って来て頂き家の様に過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア移動時はエレベーターが使用できるが、自立歩行が出来る方には一緒に階段を使用して頂いている。フロア内は段差がないが入浴時やベランダへ出る時などは見守り・声掛けを行い安全で自立した生活が送れるように工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 あずみ苑 津久井浜

作成日 28 年 1 月 20 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に地域の関係者（町内会役員や知見者など）の参加が難しい。	運営推進会議を行う際、町内会の役員さんにも出席して頂き、サービスの向上に活かしたい。	町内会の会合等に参加し、運営推進会議等の説明をさせて頂き、参加をお願いする。	3ヶ月
2	10	外部評価のアンケートで明らかになった意見・要望を運営に反映し、きめ細かい報告の工夫が求められている。	「わからない」との回答が無いよう報告を工夫し、ご家族様の要望に答える。	毎月送付しているお便りに、より分かりやすく報告して行き、ご家族様の要望に答える。	3ヶ月
3	35	防災訓練・夜間想定訓練時に地域の協力が得られていない。	防災訓練・夜間想定訓練実施時に、地域の方にも参加して頂き一緒に訓練できる。	町内の防災会議に出席したり、会合等に出席し、参加をお願いする。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。